

さとうゆみ

きらめく未来づくり通信

2022年(令和4年)5月発行 NO.49

〒480-1157 長久手市桜作1708-1
TEL 0561-61-6991
携帯 090-5863-9971
E-mail:info@satoyumi.net

市民の想いで
まちは変えられる!



さとうゆみ議会報告会
6月18日(土)14時~16時
長久手交流プラザ1階多目的室

もえるごみ袋の値上げ一旦見送りと決定

市は、令和5年7月から「もえるごみ袋」をLサイズ1枚15円から50円へ、Sサイズ1枚10円から30円へ、SSサイズ1枚8円から20円へ値上げする方針と市民に周知しました。私は、値上げせざるを得ない特別な理由があれば検討する必要があると考えていましたが、根拠が不明瞭だったため、一般質問で取り上げました。また、議会として「もえるごみ袋増額の再検討を求める要望書」を市長へ提出しました。市民からは「もえるごみ袋の値上げに反対する署名」が市長へ提出されています。その結果、**値上げは一旦見送るとの市の方針になりました。**



《さとうゆみ3月議会一般質問から》

Qさとう 32回に渡る市民との地域意見交換会を終えて、もえるごみ袋をLサイズ1枚15円から50円へ3.3倍に値上げする方針は変わらないか。

Aくらし文化部長 値上げ幅を一気に引き上げることが一番効果があると考えているが、金額については今後総合的に判断していく。

Qさとう ごみ袋の値上げはごみの減量が目的ということだが、値上げによる増収分の約1億円も市として必要か。

Aくらし文化部長 ごみの減量が目的であり、財源確保を目的としているのではない。増収分は、ごみに関する課題解決のための施策に充て、市民に還元していきたい。

Qさとう 県の令和元年度の調査によると、長久手市の1人1日当たりの家庭系ごみの排出量は県下で少ない方から9番目であり、市民はこれまでもごみ減量に取り組んできた。「一般廃棄物処理基本計画【中間見直し】」(平成31~平成35年度)で設定しているごみの減量目標値は令和5年度のものだが、令和5年度を待たずして今値上げをしなければならない理由は何か。

Aくらし文化部長 ごみ減量の必要性が全世帯に浸透するよう努めてきたが、減量に向かっていないため、検討を始めた。

~さとうゆみの考え~

市は、32回に渡る市民との地域意見交換会を開催するなど「もえるごみ袋」の値上げに向けた準備を進めてきましたが、結果的に一旦見送るとの判断をしたのは値上げの根拠が不十分だったからだと考えます。ごみの減量が目的ならば、まずは市民への周知徹底と分別促進の施策を進めるべきです。今後、ごみ袋を値上げする必要があるのかどうか、ごみの処理を取り巻く現状をよく勉強し、市民の皆さんと考えていきたいと思います。

この通信の発行に一部政務活動費を使用しています(政務活動費は年間12万円)

第29回湿地サミット6月1日に開催

長久手の「クテ(湫)」は、じめじめしたところ、つまり湿地という意味です。**長久手市東部を中心に希少種の植物や昆虫が生息する湿地が十数カ所残っています。**長久手に残る湿地を多くの人に知ってもらい、将来に渡り保全していきたい考え質問しました。



《さとうゆみ3月議会一般質問から》

Qさとう 令和4年度に長久手市で湿地サミットが開催される予定だが、どのようなか。

Aくらし文化部長 文化の家で市内の湿地や保全活動の紹介、講演などを行い、鯉ヶ廻間(こいがばさま)上池、下池周辺で湿地の見学を行う。環境活動団体など約300人の参加を見込んでおり、市民には別の時期に湿地の見学会を開催する。

~さとうゆみの考え~

湿地サミットは、愛知県下の13の自治体が持ち回りで開催し、本市での開催は平成20年9月以来です。湿地は放置すると消滅してしまうため、今回のサミットを契機に保全活動を強化し、希少種が生息する湿地を次世代に残していきたいと考えます。

令和5年から中学校で男女混合名簿導入

《さとうゆみ3月議会一般質問から》

Qさとう 市のすべての小学校で男女混合名簿を使用している。中学校でも男女混合名簿を導入するべきではないか。

A教育長 令和4年度は準備、令和5年度から導入する。

~さとうゆみの考え~

私は、平成27年12月議会から中学校における男女混合名簿の導入について取り上げてきましたが、今回ようやく実施する方向に動きまわりました。世界経済フォーラム(WEF)が出した「ジェンダーギャップ指数2021」で日本は世界156カ国中120位となっていることやSDGsの目標の1つが「ジェンダー平等を実現しよう」であることから、義務教育の現場においても男女の格差がないようにする取り組みを積極的に進めるべきだと考えます。

☆表面では、さとうゆみ3月議会一般質問60分間の概要をお知らせしています。詳細は録画中継をご覧ください→



さとうゆみプロフィール

1978年名古屋市名東区生まれ
2000年南山大学文学部卒業、損害保険会社に勤務
2011年市民活動を経て33才で長久手町議会議員に初当選
2015年2期目当選、2019年3期目当選
家族:夫、息子(大学2年生)、娘(中学2年生)

新年度予算を審議 古民家移設は必要か？

令和4年度の一般会計予算は、総額214億1,000万円で令和3年度当初予算と比較して5.3%の増加となっています。令和3年度当初予算では、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な市税減収を見込んでいましたが、実際に1年間過ぎてみると減収はそれほどありませんでした。

近年、人件費や扶助費(子育てや高齢者・障がい者福祉などの費用)といった義務的経費の上昇に加え、公共施設の修繕や維持管理に大きな予算が必要となっており、市の財政に余裕がなくなってきました。令和4年度予算では、市民生活に直結した各種施策の予算が削減されていました。一方で、石田地内にある古民家(江戸時代後期の鳥居建構造の家屋で明治時代に瀬戸の品野村から移築)を古戦場公園へ移設して歴史民俗体験施設とすることは必要でしょうか。古民家の移設は、文化財保護の観点から市が行うべき事業ということですが、国登録有形文化財にすることも、市指定文化財にすることも諦めたということです。文化財にしないのであれば、当初の意義や目的を見失っていると考えます。



令和4年度一般会計予算に対する附帯決議を可決

一般会計予算は市長提出の原案どおり可決しましたが、賛成全員にて付帯決議を付すこととしました。古民家を古戦場公園に移設し歴史民俗体験施設とすることに關わる設計費972万円について、以下の3点に留意して進めるよう求めるものです。

- 1 善意の第三者である古民家寄附者の意思を損なわないようにするため、早急に撤去、保管し、整地をすること。
- 2 古民家の移設場所については、古戦場公園一帯に限定せず、東山地区も視野に入れて検討すること。
- 3 市民及び議会に対して、再度古民家移設場所も含む活用のあり方を説明すること。

尾張旭市長久手市衛生組合解散・財産処分

尾張旭市と長久手市は、「尾張旭市長久手市衛生組合」を組織し、尾張旭市内にある「昭和苑」と長久手市内にある「香流苑」の2つの「し尿処理施設」を長年に渡り共同で運営してきました。下水道の普及による処理量の減少で令和4年3月末をもって組合を解散し、「香流苑」は使用しない施設となります。

組合の財産の所有権割合は尾張旭市約7割、長久手市約3割です。長久手市内から出るし尿の処理は日進市南部浄化センターへ委託しますが、尾張旭市は今後も「昭和苑」を使い続けるため、「昭和苑」の所有権を尾張旭市100%とすることで、「香流苑」の所有権割合は尾張旭市41.686%、長久手市58.314%となりました。1万5,396㎡もの面積がある「香流苑」は、現状有姿で第三者へ売却することになっています。なお、組合の調査では解体費に約5億5,000万円がかかる見込みです。



6月議会一般質問の日程

6月21日(火)、22日(水)、24日(金) 午前9時30分～

各種体育施設を民間事業者が管理・運営

これまで市直営で管理・運営してきた市の各種体育施設を令和5年4月から指定管理者制度で民間事業者が管理・運営してもらうための条例改正案を可決しました。対象となる施設は、杵ヶ池体育館、スポーツの杜、市民野球場、杵ヶ池テニスコート、菖蒲池テニスコート、市民テニスコート、杵ヶ池公園で、民間事業者1者が一括で管理・運営を行います。質の低下につながることはないよう、状況を注視していきます。



セーフティステーションを廃止し売却へ

リニモ杵ヶ池公園駅前のグリーンロード沿いにある「セーフティステーション」を令和4年3月末で廃止するための議案を可決しました。平成16年に市が防犯施設として設置し、青色回転灯をつけた自動車でのパトロールの拠点となる場所でした。令和3年3月に長久手南部に交番が新設されたこともあり、「セーフティステーション」を廃止し、跡地を売却する市の方針となりました。自動車2台体制で行ってきたパトロールは、市役所を起点に1台で行います。



ロシアのウクライナ侵略を非難する決議

「ロシアのウクライナ侵略を非難する決議」を全会一致で可決しました。ロシアがウクライナへの武力による侵略を開始したことは許されるものではなく、ただちに中止し、即時撤退することを求める内容です。

ロシアによる軍事侵攻により、ウクライナでは多くの民間人が犠牲になっており、国外への避難を余儀なくされる人も増加しています。ロシアはただちに停戦に応じ、ウクライナに平穏な日常が戻るよう願っています。

中学校の制服がブレザーになりました

令和4年4月入学の中学生から、制服が従来の詰襟学生服・セーラー服からブレザーに変わりました。制服の形などは教員で組織された検討委員会が決め、デザインは3つの案から小中学生、保護者、市民による投票で選ばれました。エンブレムとボタンのデザインも、生徒から募集して選ばれました。女子生徒がズボンを選択することができ、性別に関係なく着ることが出来る制服となっています。



議員インターンシップの大学生を受け入れ

今年もまた2月から3月の2カ月間、NPO法人ドットジェイピーの議員インターンシッププログラムで大学生3人を受け入れました。3月議会の傍聴の他、市内外の公共施設や介助犬訓練センター、愛知中部水道企業団、名古屋市農業センター、瀬戸市海上の森などへ出かけ、私にとっても学びが多い2カ月間となりました。



詳細はさとうゆみブログをご覧ください→

